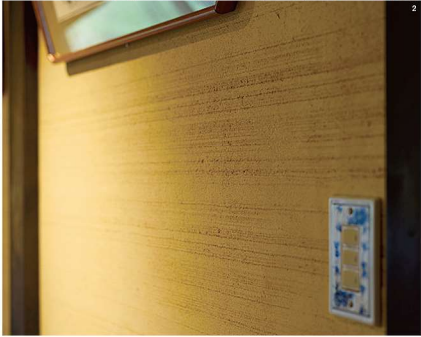




日本の家を次代に受け継ぐ。  
ハウズランド社  
「和の家 吉木」  
Studio Wanoie Yoshiki



1. 昔ながらの太い梁は磨きをかけ、ドイツの自然塗料で塗装を施すことで重厚感のある表情に生まれ変わる。2. 室内の壁はスペイン産の漆喰の塗り壁。壁ごとに塗り方が異なり、表情の違いを見比べることができると部屋の壁に取り付けた内窓から見える静謐な空気にも趣がある。



日本の古い民家だからこそ  
醸し出せる美しさがある。

古民家と個性のいい薪ストーブ火で温む場合は心にも安らぎを伝えてくれる。ストーブの周辺は耐火性に優れ、デザイン面でのアクセントにもなっている。

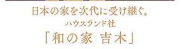
「先代が自分たちのために建ててくれた家を、その簡単に壊せない、できるなら孫子の代まで残したい。そういう思いから遠くにある古い民家をリノベーションし、お盆やお正月などに家族や親戚が集まるような家として建て直す方が増えています。三上さんリノベーション技術が高まり、思い出の詰まった家の選り方や活用の選択肢も増えている。「ハウズランド社」らしいパートナーとして、家と家族の味方になってくれるはずだ。



古民家ならではの和の雰囲気を活かした居間のようなベッドルーム。使う素材や壁の色ひとつで洋風に見立てられることもできる。

親が建ててくれた家を、みんなのふるさとに。 「ハウズランド社」が古民家の再生に力を入れるには理由がある。それは日本の住まいの文化を後世に残したいという思いだ。 「ヨーロッパの住宅は古いほど価値があります。これからは、日本の住宅も耐震性、耐熱性、気密性を見直し、必要な部分に手を加える機能性を高めることで100年、200年と続く住宅にしていけることができます。つまり、代々受け継いできた家という財産を次代に手渡すことも十分に可能なのです。三上さん。こうした姿勢に共感する人も多いのだろ。 「ハウズランド社」は「親が建てた家を壊さずに残したい」という相談も数多く寄せられる。 「古民家の大きな魅力は時間が経つほどに豊かな表情になる梁や柱磨きをかけて塗装を施す、時代を経たものにし出せない個性が出てきます。また、壁や床材の素材によっては和風にも、洋風にもなる懐の深さも魅力。弊社では建具もすべて造作でオリジナルのものをご提案しています。 またこの「吉木」では塗装下の壁紙「ナフアザール」をはじめ壁紙や塗料は環境先進国であるドイツの

株式会社ハウズランド社 (Houseland)  
TEL. 092-922-8771 (和の家「吉木」)  
福岡県筑紫野市大字吉木344-1  
http://www.h-land.jp/  
●詳しい情報はP000に掲載



日本の家を次代に受け継ぐ。  
ハウズランド社  
「和の家 吉木」

女性のお客様にとって  
相談しやすいパートナーに。  
ハウズランド社  
二級建築士、古民家鑑定士一級、宅地建物取引士  
三上 葵さん  
九州産業大学工学部住居・インテリア設計学科卒業。住居メーカーで営業経験を積み、建築士として「ハウズランド社」へ。新居の設計やデザイン、古民家の調査を担当する。「お客様との対話を通じてお好みのデザインを理解し、設計に活かします。女性のお客様にとって相談しやすい存在になれたら幸いです。」

